



令和5年度 羽田中学校だより

# 天 空 の 橋

令和5年12月21日 12月号

目指す生徒像・・・

**H**ear  
**N**ever Give Up  
**D**o Our Best  
大田区立羽田中学校

## 2学期を終えるにあたって

もうすぐ2学期が終わります。ここまで各月の学校だよりで、「どのような学校をつくっていきたいか」を少しずつ書いてきたつもりです。まだ、1年が終わったわけではありませんが、ここでもう一度、そのまとめをします。来年度以降につながる、「学校づくり」の方向性となります。

### ◎ 社会の形成者を育てる …… 学校の目的

学校は「社会を形づくる事ができる」人を育てるためにあります。自分たちで自分たちの社会をつくっていくことができる人を育てるのが教育基本法に定められた学校の目的です。

中学校は、その社会をつくる能力をつけるための練習の場です。ですから、生徒自身の社会、つまりクラス・学年、そして学校を生徒自身でつくることを体験しながら、社会のつくり方を学ぶこととなります。

学校をつくっていく主役は生徒です。主役として、自分たちで自分たちの社会をよりよく、つくっていかうという気持ちがなければ、「社会の形成者」となる練習にはなりません。そのために、学級会活動、生徒会活動などさらに活性化したいと思っています。

### ◎ 安心・安全な学校

よりよい社会をつくっていくというとき、その「よさ」とは何でしょうか。まず、重要なことは「安心・安全」な状態です。

#### 《 安全 》

安心・安全のうちの「安全」とは、身体にも心にも危害が加えられない状態です。暴力によって身体が傷つけられないことはもちろん、言葉によって心が傷つけられない状態が必要です。社会の中で違法とされている行為（犯罪行為）は、学校でも許されません。違法とされている行為をしてしまったとき、「これからはめます」という言表をする生徒を、学校としてそのまま集団に戻すことはできません。少なくとも、「もうしない」という決意を示すところまで指導することとなります。

自分たちで「社会を形成する」という意味では、教員が指導するだけでなく、「安全な社会を自分たちでつくる」という活動を生徒がすることも重要です。この部分は、まだまだ取組を進めていく必要があります。

#### 《 安心 》

安全であっても、「安心」であるとは限りません。危害が加えられ、身の危険が及ぶようなことがなくとも、知らない人ばかりのところ、話すがいない状況では、「安心」感はもてません。「安心」とは、「心が安

まる、状態だからです。

安心な状況をつくるためには、周囲と気兼ねなく「つながれる」ことが必要です。体育祭・文化祭、宿泊行事・社会科見学などの行事の大きな目的は、「つながり」をつくり安心してすごせる学校にするためのものです。12/19に1・2年生を対象に行われたアドベンチャーラリーもその一貫です。安心な状況をつくることも、もっと生徒で行ってよいと考えています。学級・学年レクや球技大会などを自分たちで企画し運営できるとよいと思っています。

## ◎「自由な中で、自分を律することができる」ようにする…… 本気で自由をめざそう！

よりよい社会というときの「よさ」のもう一つが、「自由な中でも、自分を律する」ことができる状態です。生徒が巣立っていく日本の社会は、基本的に自由が保障されている社会です。他者に危害や迷惑を与えなければ、自分がどのような行動をするかは、自分で決められる自由な社会です。その自由な社会に適應するためには、自由な中で自分を律することができなければいけません。自由だからといって、自分を律しより良い状態をめざして努力することがなければ、社会の中で幸せに生きていくことはできません。また、社会自体もよりよくすることはできません。ですから、本来、中学生であっても自由な中で自分を律する状態が望ましいと考えています。しかし、中学生は自分を律するにはまだ未熟です。制限がないとき、将来を見据え欲求を抑えて必要な行動がとれるほど大人ではありません。全てが自由では、まだ混乱をします。そのため、校則等で自分を律する場（雰囲気）をつくっているのが中学校なのです。しかし、制限をずっとしては、自由な中で自分を律することができるようにはなりません。

自由は広げていくべきなのです。では、どうすればよいのでしょうか。生徒自身が、自分たちは自由な中でも自分を律することができることを示し、自由を勝ち取っていけばよいわけです。

今年度、2年生が社会科見学でのお土産購入などの行動制限をなくしました。問題なく、自分たちを律することができると学年全体で確認・決意できたからです。このような取組は大歓迎です。

現在、社会の中では、不合理な校則をなくす言論が世論を賑やかせています。必要のない校則をなくすことに、基本的に賛成です。ただし、「なぜその校則が今まであったのか」「それをなくすとどのようなマイナスがあるのか」「なくした場合そのマイナスを自分たちの中で出さないようにするにはどうすればよいのか」などを、生徒自身がきちんと検討し、自分たちでその「きまり」がなくても、自分たちで律する能力を示すことが必要となります。生徒の中で、そういった動きがでてくることを期待しています。学校としては、その能力を伸ばすための、生徒会・学級会などの活性化や、授業において深く考える能力を育成したいと考えています。

## ◎ 学習をして自分の世界を広げる

「よりよい社会」「よりよい自分」を目指して努力することが重要であり、そういった努力ができる学校をつくりたい、ということを書いてきました。《「よりよい社会」「よりよい自分」を目指して努力すること》の大きなポイントとなるのが学習です。学習は、「よりよい社会」をつくるため、「よりよい自分」をつくるために重要です。多くの中学生にとって、

学習（勉強といった方がよいかもしれませんが）は、決して楽しいものではないでしょう。まさに、必要性を自覚して、自分を律して行うことが必要な事柄ということになります。「自分を律して学習に向かう」ことは、自由な中で必要性を感じて自分を律して行動するトレーニングのもっとも典型的なものです。必要なことに自分を律してできない状態では、自由を獲得することにもつながりません。

羽田中では、ここ数年、東京都の平均的な中学生よりも学習をする状態になっています。今年度の上級生も、やはりよく勉強しています。しかし、残念ながら下級生は、「なぜ勉強しなければいけないのか」という自覚が足りない状況です。

「よりよい社会をつくりあげるため」「自分を成長させるため」「自由を実現するため」、自分を律して、学習に取り組む状態をもっとつくりたいと思っています。とはいえ、我慢するだけの学習では、現実の中学生はなかなかついてこれられないものです。中学校から取り組みやすい英語などの教科に、効果のある取組をつくっていくことも大事だと考えています。

### ◎ 地域・保護者の声を生かす

5年前、私が羽田中に赴任してから、たとえば次のようなことは、声を反映させてきました。

- ・ 2学期の中間考査を設ける
- ・ 別室登校ができるようにする
- ・ 定期テストの別室受験を認める
- ・ 入学説明会を、1月の下旬から、2学期及び2月にする

今年度も、「生徒の再登校を少しでも減らす取組」を、保護者の方の声を伺い行いました。今後も、地域・保護者の声を生かしていきたいと思っています。前向きなご意見を、聞かせていただければと思っています。

個々の保護者・地域の皆様のお声は重要です。しかし、多様な意見がある中、ある意見だけをとりあげるのは組織としては難しい面があります。保護者の方、地域の方の声が、組織として届くことで、学校の変化は促進されます。そのため、地域学校（コミュニティスクール）としての組織づくりも進めていきます。

